



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 334

2019(令和元)年 8月 1日(木)発行

常磐線が来年3月末までに全線再開・同時に東京～仙台に特急も

JR東日本は7月5日、原発事故で常磐線の不通区間(浪江駅から富岡駅まで20.8km)を復旧し、2020年3月末までに全線を再開通し、同時に上野(品川)駅から仙台駅を直通で結ぶ特急の運行を発表しました。9年ぶりの復旧です。

ちょっと勇気を出して声を出しましょう! 発信を!

○政治や憲法に口出しするのはタブーで、忖度が蔓延しているかのようです。でも意見はきちんと発表したいですね。会報にたくさんの意見、ありがとうございました。

会員さんからの手紙やメールが事務局にたくさん届きました

◆「発行を待ち望んでいた朝倉悠三さんの『震災絵日記』を5冊購入し、サインをお願いして、友人たちに配ります。」(南相馬市・Kさん)

◆ ふつうの生活が大事です

「会報をいつも、ありがとうございます。会報No. 331で紹介の映画『誰がために憲法はある』を観ましたよ。渡辺美佐子さんの一言、「ふつうの生活が大事なんだとわかった」。戦争はふつうの生活を奪い、原発事故もふつうの生活を奪いました。そして一番の犠牲者、被害者は子ども!世界中の人が平和を大事にする世の中にしたいです!」

(東京都板橋区・Yさん Yさん夫妻は原発事故で南相馬市原町区から神奈川県に避難。しかしやがて、自主避難と見なされ支援は打ち切れ、現在は東京都の娘さん家族と同居しています。)

◆「誰がために憲法はある」上映会を

「会報で紹介の映画『誰がために憲法はある』を仙台で観てきました。渡辺美佐子さんやベテラン女優たちの詩の朗読が心をうち、原町でも上映したいものです。」(南相馬市・Iさん)

◆ 映画「新聞記者」にドキドキ

「東京新聞・望月衣塑子記者著『新聞記者』が原案の映画(監督藤井道人)を、名取のモールで観てきました。政権を守り保身だけの冷酷な内閣府官僚と、良心に従おうとする若い官僚(松坂桃李)の苦悩、そして真実を伝えようとする女性新聞記者(シム・ウンギョン)のやりとりに、ドキドキさせられました。明らかに安倍政権を批判している映画ですから、官邸からの圧力が心配です。映画を観てすぐに、原作の望月衣塑子著『新聞記者』と『同調圧力』(角川新書)を読んでいます。」(南相馬市・Yさん)

「福島原発かながわ訴訟原告団」団長

村田 弘さん



「私は小高区生まれの会員です。原発事故のため小高区から神奈川県に避難していますが、解除されても小高の自宅は高線量でとても戻れません。」

しかし福島県当局は対応が大変冷酷で、避難指示区域外避難者に対する最低限の「支援策」だった民間賃貸住宅入居者に対する家賃補助、国家公務員宿舎の有料入居も打ち切りを強行しました。病気や困窮、公営住宅の入居条件などで行く先が決まっていない53世帯に対し、「家賃2倍相当の損害金」の請求書を月内にも送りつける、としています。

人間の尊厳を否定し、まるで棄民です。被害者や支援者団体の度重なる抗議や撤回の申し入れにも一切耳を貸さない頑なな姿勢の背後には、「東京五輪の前には被害者を消し去る」という安倍政権の強固な意向があることは疑いを容れません。私たちの訴訟のことも、会員の皆さんにも分かっていたいただきたいと思います。」

「この国の民主主義は形だけでいい」

映画『新聞記者』。出演した松坂桃李の勇気、新聞記者役女優の演技に賞賛が寄せられています。



○5月の会報No.329に「五日市憲法の起草者千葉卓三郎」のことを掲載しましたが、嬉しいメールが届きましたので、その人物像を考えてみました。

会員さんからのメール

◆ 懐かしい「タクロン・チーバー」 千葉卓三郎のこと

「会報No. 329の五日市憲法の記事を見。44年前仙台の宮城女短大時代に日本国憲法の講義で後藤教授が、千葉卓三郎を何度も説明し、卓三郎はタクロン・チーバーと呼ばれていたと熱く静かに話されていたことを、今も忘れません。私の脳裏にタクロン・チーバーは焼き付いています。地元の鈴木安蔵は取り上げられる中、千葉卓三郎はなかなか出てこない、実は首を長くしていた次第です。今回、記事を見つけて「やったー、やっとその名が出てきた!」と、とても嬉しくなりました。同時に熱く語ってくれた後藤教授を懐かしく思い出して、連絡させていただきました」
(前原町区、現在伊達市在住・Kさん)

◆仙台市青葉区の資福寺には卓三郎の墓と「記念碑」、出生地の栗原市志波姫総合支所前や、あきる野市にも立派な「顕彰碑」が建てられ、また五日市憲法が発見された土蔵の深沢家屋敷跡は東京都指定史跡になり、町のお宝になっています。

◆さて、「日本国憲法の間接的起草者」鈴木安蔵宅にも「案内板」や「顕彰記念碑」の設置が必要ではないでしょうか。

映画『日本の青空』にも登場

千葉卓三郎とは

卓三郎は江戸時代末期の1852(嘉永5)年、仙台藩士千葉宅之丞の子として誕生する。仙台藩校の養賢堂や学頭大槻磐溪はんけいに学ぶ。16歳で戊辰戦争で戦うが敗北して帰郷。



明治に入るとキリスト教に入信。東京で医学、国学、仏教、数学、ロシア語などを学び、五日市(現・東京都あきるの市)の公立の勉能学校の教師を務め、後に二代目校長となる。

その一方で自由民権運動に身を投じ、時代の最先端の民主的な私擬憲法「日本帝国憲法」を深沢権八らと起草した。お茶目な人柄なのか自ら「ジャパネス国法学大博士 タクロン・チーバー」をペンネームとしていた。1883(明治16)年に31歳の若さで病没。

それから85年後の1968(昭和43)年、深沢家の土蔵から私擬憲法が発見され「五日市憲法」として脚光を浴びることになります。



▲宮城県栗原市志波姫の卓三郎生家跡の「タクロン公園」。記念碑や案内板があり、5月25日本会の平田会長と事務局志賀と山崎が訪ねました。



《事務局より》

総会にご出席、お疲れさまでした。

若松丈太郎さんの講演会には、遠くから出席の方も多く、講演は短歌などをたしなむ安蔵の優しい人柄や人間性を知ることができて、大変勉強になりました。

会報は毎回、400名の会員に郵送が原則ですが、うち約100通は事務局員が市内を回って手配りし、経費の節約に努めています。また前回の会報にはたくさんの感想が届いて、事務局員一同大変嬉しく思っています。お便りお待ちしております。

「はらまち九条の会」事務局《市外局番はTEL0244》



- 会長: 平田慶肇(ひらた けいいち) TEL24-1211・FAX24-4825
- 事務局長: 早坂吉彦 〒975-0016南相馬市原町区仲町2-161 TEL090-2975-2508
- 事務局次長: 山崎健一(福島市) TEL090-7527-5453 Eメール: yamazakiken1@gmail.com
- 会計: 井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892
- 石田賢二(郡山市) TEL080-5556-4037 ○番場恵子 TEL22-0715 ○HP: 大浦祥見 TEL24-0704
- 志賀勝明(相馬市) TEL090-9530-5524 ○田中徳雲(小高区) TEL090-2796-4066